カラムシ街道市の名前の由来について

大橋寿一郎

四百人余の人出で賑わった。とり、石黒地区で第六回カラムのはらつく天気であったが、シ街道風土市が行われた。あいに

た草の一つに過ぎない。代もある植物で市内ではありふれ縮の原料として畑に栽培された時だが、カラムシは昔から白布や

のであろうか。縮が石黒で特に多く生産されたもくる青苧を糸に紡いで織る白布やでは、このカラムシの皮からつ



くことはできなかった。
たが、機織りの様子については聞
れても糸紡ぎの様子の記憶は聞け
ないなかった。村の古老に尋

う本で下段掲載のページに出会い開いた「越佐郷村の古文書」といところが、昨年、市の図書館で

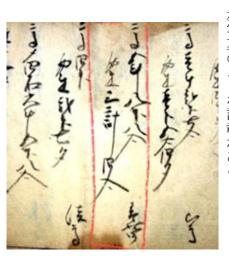
とあることから天和検地の前に行われ 百年も前から石黒で白布が生産さ 二十六軒の村で検地の対象とな る青苧畑が四反近くあったこと、 る青苧畑が四反近くあったこと、

驚いた。 六升」であったことが分かり一層

また、「元禄四年(一六九一)「免

た検地時にすでに「外、白布高三石

左写真のような記載がある。割御年貢帳」の「権四郎」分には



29 刈羽郡石黒村検地帳

(現) 刈羽郡高柳町石黒一冊

天和三年閏五月「越後国刈羽郡石黒村御検地水帳扣」は、陸 東津軽藩検地による検地帳を明治三十二年刈羽郡石黒ノ内落合 村大橋範顕が筆写したもの。内題は「刈羽郡別俣郷女谷村之内 石黒村」。九四石四斗七升四合の村で屋敷が二六筆(うち一筆 は「八歩 境目番所」)と多いが、青苧畑が三反九畝三歩あり、 「古高四拾三石壱斗六升壱合、外白布高三石六升、新検無之、 是ハはり札ニ而有」と付記されて、この村が白布の生産地であっ たことを示している。

取米(※年貢として納める米)「高五斗八升八合 青苧

三斗四合」(写真赤枠内)

戸に青苧高の記載が見られる。

「意味によると四十九戸のうち四十の漆高四升に比べて青苧高がいかの漆高四升に比べて青ヴ高がいか

大きく上回っている。 大きく上回っている。
一石二斗三升、岡田村一石一斗を
一石二斗三升、岡田村一石一斗を
一石二斗三升、岡田村一石一斗を
一石二斗三升、岡田村一石一斗を
大きく上回っている。

その他、高橋義崇著「鵜川の話」の第二巻には鵜川ではカセ〔糸〕の記録はなく、縮布は木綿などとの記録はなく、縮布は木綿などとりなったと記されている。(鵜川はなかったと記されている。(鵜川はなかったと記されている。(鵜川はなかったと記されている。(鵜川の話」

では、果たして、カラムシからは確かである。ともかく、石黒では昔から青苧

ろうか。 糸を紡ぎ布まで仕上げたものであ

ろう。
は昭和一桁生まれの人々までであたげる様子を自分の目で見た世代の中で青苧から糸を紡ぎ布に織りの中で青ヴから糸を紡ぎ布に織りの中で

私の母は、大野の実家で自分が子どもの頃に見た、祖母が青苧から糸を手で紡ぐ苧積み(苧を裂いら糸を手で紡ぐ苧積み(苧を裂いた)ので特に忘れられないのは、苧積みに仕事をしていたという。話の中に仕事をしていたという。話の中に仕事をしていたという。話の中にが事で、何より大切なことは心を平らに保つことであり、心の乱を平らに保つことであり、

次のような記述が見られる。谷の田辺雄司さんの思い出文にはるのほか、昭和初年生まれの居

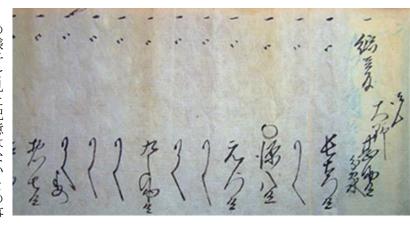
部屋から桶を持ってきて石油ラン夜、苧積みの仕事を始める時にはにしていたことを憶えています。

行ったという。 世事を終えて寝るときには苧桶を 自分の寝室に運び、座敷等に置く ことはありませんでした。」こうし て紡いだ糸は十日町や小千谷から であった。」こうし



また、田辺さん自身も子どもの

ものだと語っておられたが、機織頃にカラムシ刈りを手伝わされた



であった。
りの様子を見た記憶はないとの事

枚半もある長大なものである。(上大橋正男家の文書で、縮の集荷を依頼する大橋市太郎宛ての文書に出会った。この文書は「覚」という題名で、半紙をつないだ畳一

写真)年代の記載はないが宛名人の他の文書から推定するに明治中の他の文書では、大野は十五軒で二右の文書では、大野は十五軒で二十六反を出荷していることが分かる。

四反とは驚く。と付記されている。それにしてもが一軒見られ、内一反は「よめ」が一軒見られ、右記の通り、一戸で四反

と思われる。ちなみに、北越雪譜と思われる。 と思われる」とある。 に行われ、技術的に を縮布の生産は天和以前から明治 で顕まで盛んに行われ、技術的に も一定のレベルに達していたもの も一定のレベルに達していたもの

> には、『弁慶縞は高柳郷にかぎれり・・・』との記述も見られる。 一方、石黒は、高柳郷の村々の中で、とくに山間へき地にあって 耕地に恵まれないことから、一層

いずれにせよ、ここに、我々はカラムシ街道市の名前の由来をみることができよう。れてならないことは、石黒の「ギャラリーからむし工房」の大橋美キラさんの存在である。地元の自恵子さんの存在である。地元の自然素材を使って糸を紡ぎ布を織り、

(HP石黒の昔の暮らし編集会)

に続けられている。